



No.162

2023.12.18

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介

冬季休業中のお知らせ



残りの時間を考えて

今年もあとわずか。3年生は学校生活の終わりも近づいていますね。慌ただしい年の瀬ですが一度立ち止まって 今、何をすればよい？何をしなければいけない？と自問し、残された時間を大切に過ごしましょう。時間に関する下記の新着図書2冊を読んでみてはどうでしょう😊

『時間の終わりまで—物質、生命、心と進化する宇宙』

グリーン、フライアン 【著】

なぜ物質が生まれ、生命が誕生し、私たちが存在するのか？進化する宇宙は私たちをどこへ連れてゆくのか？ビッグバンから時空の終焉までを壮大なスケールで描き出す！

『知的生きかた文庫

カエルを食べてしまえ！ (新版)』

トレーシー、フライアン 【著】

「カエル」とは、あなたにとって最も難しく重要な仕事で、いまやらなければどんどん後回しになってしまうもののこと。時間の質を向上させ、充実した人生を送るコツは「カエルを毎朝一番に食べること」です。

『インドーグローバル・サウスの超大国』

近藤 正規【著】

財閥の盛衰やIT産業の強さの理由といったビジネス面から格差問題の現状まで幅広く解説するインド入門書。

『資本とイデオロギー』 トマ、ピケティ【著】

《財産主義》という視点から、三機能社会、奴隷制社会、フランス革命、植民地支配から現代のハイパー資本主義まで、巨大なスケールで世界史をたどり、イデオロギーと格差の関係を明らかにする。



ロシア文学者・奈倉有里と、小説家・逢坂冬馬

文学界の今をときめく姉弟二人の作品

『夕暮れに夜明けの歌を—文学を探しにロシアに行く』

奈倉 有里【著】

ロシアは今、どうなっているのか。高校卒業後、単身ロシアに渡り、日本人として初めてロシア国立ゴーリキー文学大学を卒業した筆者が、テロ・貧富・宗教により分断が進み、状況が激変していくロシアのリアルを活写する。

『歌われなかった海賊へ』

逢坂 冬馬【著】

1944年、ナチス体制下のドイツ。父を処刑されて居場所をなくした少年ヴェルナーは、体制に抵抗しヒトラー・ユーゲントに戦いを挑むエーデルヴァイス海賊団の少年少女に出会う。『同志少女よ、敵を撃て』に続く第二長篇



『続 窓ぎわのトットちゃん』 黒柳 徹子【著】

世界中で愛されている、あのトットちゃんが帰ってくる！泣いたり、笑ったり……トットの青春記。

『師匠はつらいよ—藤井聡太のいる日常』

杉本 昌隆【著】

次々とタイトルを奪取し、将棋界を席卷する天才・藤井聡太。その師匠である著者が、瞬く間に頂点に立った弟子との交流と、将棋界のちょっとユーモラスな出来事を綴ったエッセイ集。



『でいすべる』 今村 昌弘【著】

雪密室で死んだマリ姉が遺したのは、「七不思議」のファイル。雪密室の謎を解く鍵は、「七不思議」に隠されているのか？ 少年少女が、小学校生活最後の謎に挑む！誰も読んだことのない怪談推理。

『波紋と螺旋とフィボナッチ』 近藤 滋【著】

シマウマやキリンの模様、貝のうずまき形状、ひまわりに見られるらせん—自然界に存在するパターンは、どれも無関係に思える。しかし、フィボナッチ数や黄金角など、数理のめがねを通してみれば、驚きの「単純な法則」が見えてくる！

【その他の新着図書】

モノクロの夏に帰る	額賀 滯	文学
人口減少時代の農業と食	窪田 新之助	農業
未明の砦	太田 愛	文学
存在のすべてを	塩田 武士	文学
777 (トリプルセブン)	伊坂 幸太郎	文学
正欲	朝井 リョウ	文学
読んじやいなよ！—明治学院大学国際学部高橋源一郎ゼミで岩波新書をよむ	高橋 源一郎	図書
新日本の絶景&秘境150	朝日新聞出版	地理
春夏秋冬代行者 秋の舞 上・下	暁 佳奈	文学
ノートル=ダム・ド・パリ	ヴィクトル, ユゴー	文学
十勝ひとりぼっち農園 <12> <13>	横山 裕二	コミック
よふかしのうた <15> ~ <18>	コトヤマ	コミック

ぶらり選書 2学年 丸尾先生

『パッケージデザインのひみつ』

(公社) 日本パッケージデザイン協会 監修

なぜ、私はチョコパイを買ってしまうのか。チョコパイのパッケージにはとてもおいしそうなチョコパイの写真が載っている。それを見るとロがチョコパイの気分になる。一度、パッケージを見てしまうと、もう買うしかないだろう。このように、パッケージが、私たち消費者の購買行動に与える影響は計り知れない。したがって、企業はパッケージに様々な工夫を凝らしている。そんなパッケージの秘密についてまとめた本を今回は紹介したい。

例えば、チップスター。筒状のパッケージのおかげで、割れることなく、ポテトチップスの形状を維持している。しかし、パッケージが潰しにくく、ごみを捨てる際にイライラした経験はないだろうか。改めて、チップスターを買って、底の面を見てほしい。最近のチップスターのパッケージには、ごみ捨てがしやすいように、底の面に印がついている。その印を押すことで、簡単にパッケージが潰せるようになっていくのだ。パッケージも変わっていないようで常に進化し続けている。

この本には、チップスターだけでなく様々な事例が載っている。読んだ後は、商品や企業についてもっと知りたくなるだろう。ぜひ、この本を読んで、パッケージについて好きになってもらいたい。